

沖縄国際大学大学院法学研究科の学位論文審査及び最終試験に関する取扱要項

(趣旨)

第1条 この要項は、沖縄国際大学大学院学則第43条の3項及び法学研究科履修規程第12条に基づき、学位論文（以下「論文」という。）の審査及び最終試験の実施に関し、必要な事項を定める。

(論文の提出)

第2条 論文を提出することができる者は、所定の授業科目について32単位以上を修得した者又は修得見込の者とする。ただし、特定課題研究を選択する者については36単位以上とする。

2 論文の審査を受けようとする者は、学位論文審査願（様式第1号）に学位論文作成要領（別表）による論文正本1部、副本2部、計3部及び論文要旨（様式第2号）3部を添えて、1月末日（9月修了予定者については、7月末日）までに指導教員を経て研究科長に提出しなければならない。

(審査方法)

第3条 研究科長は、受理した論文の審査を研究科会に付託する。

2 研究科会は、各論文ごとに審査委員会を設置し、その審査を委嘱する。

3 審査委員会は、演習担当者を含む3人以上の審査委員をもって構成し、指導教員を主査とする。ただし、そのうちの1人については、他の領域から選出する。

4 研究科会が必要と認めるときは、他の大学院、研究科、研究所等の教員等の協力を得ることができる。

5 修士論文の審査は、その論文が提出された学期末までに終了するものとする。

6 主査は、当該論文の審査及び最終試験を総括する。

7 受理した論文は返却しない。

(最終試験)

第4条 最終試験は、論文の審査終了後、審査委員会が論文を中心として口述又は筆記試験によって行う。

(審査基準)

第5条 審査委員会は、次の審査基準に基づき行うものとする。

(1) 該当研究科領域における修士としての十分な知識を修得し、問題を的確に把握し、解明する能力を身につけているか。

(2) 研究テーマの設定が申請された学位に対して妥当なものであり、論文作成にあたっての問題意識が明確であるか。

(3) 論文の記述（本文、図、表、引用、文献表など）が十分かつ適切であり、結論に至るまで首尾一貫した論理構成になっているか。

(4) 関連情報の調査・収集能力、及び関連情報の読解能力の二つの観点において、現行法制度・政策を正確に把握する能力が形成されているか。

(5) 現行法制度・政策の問題点の的確な整理、その問題点に関する状況の把握、及びその問題点の解決に向けた現実的な提言の提示の三つの観点において、実践的問題解決能力が身に付いているか。

2 審査委員会は、前項に基づき、下記のように判定を行うものとする。

(1) 合格

(2) 一部修正の上、合格

(3) 不合格

(報告)

第6条 審査委員会は、論文の審査及び最終試験の結果を、学位論文審査及び最終試験の結果報告書（様式第3号）により、研究科長に報告する。

2 研究科長は、審査委員会の報告を研究科会に諮り、最終試験の合否を議決するとともにその審議結果を学長に報告する。

(改廃)

第7条 この要項の改廃は、研究科会の議を経て、大学院委員会がこれを行う。

附 則

1 この要項は、平成15年4月1日から施行する。

2 改正、この要項は、平成18年4月1日から施行する。

3 改正、この要項は、平成19年4月1日から施行する。ただし、第5条（審査基準）については、平成15年度入学者から適用する。

4 改正、この要項は、平成20年4月1日から施行する。ただし、平成19年度以前の入学者は、従前の要項とする。